

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072100694		
法人名	ケアサブライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームひなげし		
所在地	群馬県高崎市高浜町1027-11		
自己評価作成日	平成23年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成24年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・男性利用者の比率が高いが、朝の掃除の手伝い、10時の水分補給前のラジオ体操等、全員で参加で毎日行えている。</p> <p>・月2回の地域のボランティアの方の来苑、年2回の地元学童時の慰問と定着しております。また、今年の秋には地域の男性ボランティアの参加にて収穫祭を行うことも出来、運営推進会議には区長様、民生委員の方、ボランティア代表の方に参加して頂き、地域の方にすぐく支えられております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>その人その人の個性を生かした支援がされ、身なりもきちんとしており、入居前のその人らしさが引き出され継続されている。ケアプランで職員が共有している。</p> <p>利用者の誕生会には本人の食べたいメニューでお祝いされている。毎日の献立は昔食べ慣れた品々が並べられたメニューである。魚は骨のあるまま提供され(必要な人には食べやすく)利用者は元気なときと同様に上手に骨を取って召し上がっていた。地域住民の協力等からも地域に期待されている事業所として、専門性を活かした資源になれるように努力してほしい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を作成しており、事務所や玄関に掲示してある。	職員の入職時や年度始めに職員に説明して共有されている。何かあったときにはその都度話をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの方(3~4名)が月2回来苑して下さる。収穫祭には、ボランティアの方が主になり芋ほりを実施した。この時のボランティア6名。	定期的と随時のボランティアの来訪がある。草取り・農作業・花壇や歩道に花を植えること等の協力があり、地域の住民に支えられている。神社の祭事や道祖神祭りに参加している。学童の訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの行事の消火訓練等に参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。	定期的に開催され民生委員・区長・行政・ボランティア等が出席し、活動状況や玄関の施設等の意見交換がされている。4月23日の開催会のみ行政の出席がなかった。家族には毎回案内を出している。	毎回の行政の出席をお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議に参加をしていただいている。また、事故報告等、担当者への報告を行っている。	法人本部の担当者が管理者と連携をとり市役所に出向き情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議、運営推進会議で取り上げている。	昨年からの検討課題であると運営推進会議でも話し合っている。昨年窓を取り外して外に出た利用者がいたが、今は安定している。職員数や立地条件等もあり施設している。外に出たい希望者がいればその都度開錠する。身体拘束に関するホーム内研修をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議での勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時等、随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訴えがある場合等は傾聴している。	カンファレンスで話し合っている。本人の帰りたい行動が見られる時は家族に報告をしたり職員で様子を見ている。管理者は家族に常に「何かありますか?」と問いかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、時により個別に意見を聞いている。	職員は管理者に意見を言っている。管理者は法人課長に相談している。その他、職員会議でも自由に発言が出来る。職員は互いに助け合っている。希望休や有給休暇が取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は同日勤務の職員に気軽に話せる機会を作っている。また、二者面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交替で研修に参加し、研修終了後ホームに普及させるための指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の一番近いグループホームより来訪を声掛けし、イベントや行事を一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訴えがある場合は、傾聴するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、来苑時、要望がある場合は、その都度伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望に添えるように実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の事や今までの生活状況を伺う機会を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来苑時、情報交換や意見交換などを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に希望はない。	主介護者の協力以外に兄弟や子供さんの協力で外泊や外出や買物にも出かけている。お酒を飲んだり、料理の下ごしらえや好きな時代劇を見ている。ボランティアと一緒にお花を活けたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルや危険の無いように声掛けや見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があればケアプランセンターやほかのサービス事業所の案内・紹介をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位を重視している。	担当制をとり、担当者が本人との会話や家族からの情報を参考に月に1度のカンファレンスで共有している。家族の意向は面会時や職員会議の後に電話等で同意の確認をしている。言葉かけや接する職員を交代したりして対応することもある。利用者毎の1年の目標を掲げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族に伺い、サービス利用に組み入れられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察・記録によって把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回カンファレンスを行っている。その都度状況に応じて対応している。	月に1度のモニタリングを参考に3ヶ月に1度と随時の介護計画の見直しを行い、職員が共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員が個別記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じ、随時対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の小・中学校の職業体験の受け入れ、学童時による年2回の慰問、月2回の地域ボランティア来苑にてのレクリエーションの実施。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4週間に1度ホームへ往診して頂いている。緊急時・体調変化時等、電話対応・受診・往診をしていただいている。	1名が希望するかかりつけ医となっていて、家族の受診支援となっている。その場合は情報提供を行っている。協力医には希望で8名がかかっている。協力医は急変時にすぐに来てくれたり、指示を出してくれたり等で支援がある。訪問歯科の支援がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、看護職員の訪問があり、バイタルチェックをしている。状態の変化によりその都度連絡を入れ、指示を受け相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会または電話にて情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の往診時、訪問看護への相談、また、カンファレンスで検討している。	事例はないが、職員同志で話し合っている。法人としては医療行為が必要かどうかを前提に家族の意向を重視するという指針を作成し入居時に説明している。職員は法人の方針を理解し、職員会議でも取りあげながら共有を図りつつある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議で定期的に勉強会を行っている。また、救急講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練にはボランティアに参加していただいております。災害時の連絡先に区長様・ボランティア代表の方・大家さんへと通報依頼を受けていただいている。	連絡網を作成し非常通報装置に近隣者が登録されている。自主訓練1回と夜間想定総合訓練には消防署立会いで地域住民が参加している。今後は毎月自主訓練を行いたいという希望もある。備蓄は水・食料(麺類・冷凍御飯・ビスケット・カップスープ)を2～3日分用意している。	自主訓練を増加して不測の事態に備えてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や人格を見極め、自尊心等損ねてしまうような対応はしないようにカンファレンス時、職員間での情報共有を行っている。	男性の利用者が多いせいか独自の雰囲気がある。時間をおいたり言葉を選んで、声のかけ方や誘導の仕方を工夫している。利用者の身なりがきれいで、着替え時に「何を着るか」も聞き、職員は利用者の情報を共有して各自の尊厳を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方に合わせた話し方を行い、自ら決定が出来るような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制はせず、自己決定によりレクリエーション、行事に参加していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、美容師2名に来苑していただき、希望によりカットや毛染めを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一緒に摂り、旬のものを取り入れた料理を準備している。誕生日には本人希望の祝膳の用意している。食器拭きや野菜の下ごしらえを手伝っていただいている。	食事には力を入れている。スーパーに買物に行き、お米は7分づきで提供している。誕生日には祝膳を用意し希望の食べたいものを作っている。食器拭きや下ごしらえ、ゆで卵を手伝ってもらい、パンフレットを見て食べたいものを選んでもらう等の工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の計測、GI値採用にての食事提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて個別対応を行い、また、訪問歯科実施にての検診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへ定期的に行かれる様に声掛けや誘導を行っている。	チェック表を用いてのその人のパターンを把握し誘導を行い、個々の特徴に合わせた支援を行っている。おむつ等の持ち込みは自由である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、ラジオ体操への参加の声掛け、個別での運動をケアプランにもあけて実施している。また、水分の計測、食事の配慮を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員不足があり、週に2回の入浴実施がある。以前のように人員が揃い3人勤務の日にはひとりひとりに合わせの入浴を行いたいと思っている。	週に2~3回入浴している。現段階では職員体制により入浴日が決まっている。家族と日帰り温泉に出掛けている人もいる。入浴日には全員が入浴し、自分で洗えるところまではやってもらう支援をしている。	今後は入りたいタイミングでの入浴支援や、入りたいかどうかの声かけを行えるように曜日の設定を無くせるように期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく起きていただき、夜はその方のペースで休んでいただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に職員会議で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除の時は掃除機・モップかけ・テーブル拭き、また、食後のテーブル拭き・食器拭き等、声掛けや申し出により日々手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事に合わせての支援を行っている。ひとりの方は家族の方と毎週日曜日に温泉への出掛けられるよう支援している。	家族との外出のほかに、ホームではドライブ、花見などに出かけている。外食にも出かけて楽しんでいる。系列グループホーム利用者との合同運動会も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで預かっており、買い物支援時にお渡しするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は家族等へ連絡が取れるように支援している。手紙が届いても返信の声掛けは行いが希望がない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物を置いたり、時期の花を飾ったりしている。また、金魚が1匹いる。	共用空間の南側から光が入り、庭や花壇・景色が眺められる。壁には行事の写真や日ごろの作品が掲示されている。テーブルが分かれていて、ソファの近くにテレビが置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂テーブルでは席が決まっているが、場合によっては席を交換している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族の望む物、馴染みの物は自由に居室へ持ち込んでいただいている。	ベッドのみホームで用意し作りつけの整理棚の他は馴染みのものを持ち込んでいる。部屋の表に各人の1年の目標が掲げられている。家族の写真・作品・椅子・タンス、誕生日カード、洋服かけが置かれ個性のある居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に幅が広く、トイレ前には大きく「トイレ」とテープを貼り、また、遠くからもわかるようトイレプレートを大きく作り設置している。苑庭へは自由に行き来ができるようにしている。		